

ニュースレター

No.78

2014年 9月29日

目 次 ページ

お知らせ・行事案内

奇跡の海・相模湾 三崎東大実験所で磯の観察と講話

----- 1

第14回 さがみ自然フォーラム

----- 2

事業報告

バスで行く環境エコツアー 川のめぐみに触れあおう

----- 3

外来種対策事業 アメリカザリガニと遊ぼう

----- 4

県内自然保護ニュース

渋沢丘陵霊園問題

----- 5

横浜上郷地区開発問題

他団体行事のお知らせ

----- 6

丹沢ブナ党シンポジウム「丹沢に未来はあるか」

神奈川県自然保護協会 自然観察会案内

奇跡の海・相模湾

三崎東大臨海実験所で磯の観察と講話

主催 NPO 法人神奈川県自然保護協会 共催 東京大学付属臨海実験所

2014（平成26）年11月25日（火）定員30名 参加費1,000円

生命の星・地球・・・最初の生命は海の中で出現しました。それ以来生命は何十億年もかけて進化の道を歩み、様々な環境に適応し無数の種類を産み出し、それらが絶滅や繁栄の歴史を繰り返しながら今があります。

数多く生まれた海の生命のうち、陸上に進出したグループは実はごく僅かです。つまり地球の生命の中心の場所は海と言っても過言ではありません。そこに海の生物を知る意味があります。

相模湾は、深海から浅いところまで環境の変化に富んでいることでは日本有数の海です。

東京大学三崎臨海実験所は 1886 年に設立され、現在も学生の他国内外の多くの研究者に利用される最先端の研究施設です。国際的にもアメリカのウッズホール、イタリアのナポリなどの海洋生物学研究施設と連携し、世界の研究最前線基地として活躍しています。

日程：10:10 京急三崎口駅 改札外集合（京急横浜駅 9:06 発三崎口行特急がちょうど良いです）
10:25 発 油壺（マリンパーク）行京急バス乗車 終点下車
京急電車で来られる方は「三浦半島1 DAY きっぷ」（京急各駅の券売機で買えます）がお得です。

観察会予定

11:00 磯で海洋生物等の観察・採集

採集物を記念館に持ち帰り記念館付近の磯や芝生で昼食

スタッフによる採集生物の説明

所長 赤坂甲治教授の講話（展示室見学と説明・講話）

15:00

*雨天荒天の場合は、記念館内で昼食、同大演習室で赤坂教授の講話、スタッフによる説明、展示室の見学と、屋内行事に切り替えます。

*解散後、時間に余裕のある方の有志で小網代湾見学も考えています。

持ち物：弁当、飲み物（所内に販売機あり）、季節の野外に適した服装、水に濡れてもよい靴、軍手、雨具など。

特別の道具は必要ありませんが（バケツなどの用意はあり）、潮干狩りなどの用具があれば持参されると良いかもしれません。洗い場があるので、長靴や靴は洗えます。

参加費： 1000円（保険代 諸経費 イヤホンガイド使用料） 当日集めます。

参加申込： はがき、メール、FAX のいずれかで 同行者皆さんの①氏名 ②年齢 ③住所 ④連絡できる電話番号 を書いて事務局に。（はがき、FAXでお申し込みの方にはお断りするときのみ連絡致します）

〆切り： 11月12日（水） 又は定員（30名）に達したとき

神奈川県自然保護協会 事業のお知らせ

第14回

さがみ自然フォーラム

（野生動植物保全フォーラムが名称変更しました）

年末に、今年の活動をふり振り返り情報交換をしませんか

2014年 12月 21日（日）

厚木市文化会館 集会室 & 小ホール

活動ポスター発表 と 講演会
ポスター発表、延長して募集中

第1部 11時～12時（休憩） 13時～14時（4階 集会室）

県内で活動する自然保護、生物多様性保全活動をしている各種主体によるポスター発表による交流会（一般の方にも呼びかけます。）

第2部 14時30分～16時30分（小ホール）

講演会（里山の保全・活用に関する内容） 講師 東京農業大学名誉教授・元学長 進士五十八氏（交渉中）

前回お知らせしましたが、ポスター発表してくださる仲間、期間延長して募集中です。賑やかな交流の場になることを願っています。（応募詳細は前号参照又は事務局にお問い合わせ下さい）



〔 昨年の様子 〕

ポスターを前にスピーチ ↑

← 質疑応答・交流

バスで行く環境エコツアー —川のめぐみに触れあおう—

厚木市は一昨年「生物多様性あつぎ戦略」を策定し、昨年度から取り組みを始めました。

そのひとつとして、市民向けに「生物多様性と私たちの暮らしを考えるエコツアー」を神奈川県自然保護協会と共同で実施しています。

今回は「川のめぐみ」をテーマとして、8月5日親子を含めた17組、32名の参加を得て身近にある川で川の生き物と、川が暮らしをどのように豊かにしてくれているか学びました。昼食は、市内の旅館において鮎を使った特製弁当を作っていました。

午後の社家、相模大堰では、オーストラリアからの来客・今年一度は流されながら2度目の産卵育雛に成功したコアシサシに出会うこともできました。

事後の参加者アンケートによると、大変満足度の高い行事でした。ただ難点は当日真夏の暑い日だったことでした。

来年度は、アユの遡上するのが見えるかも知れない春にしたらと検討しています。

行程

厚木市役所 ～ 玉川の自然に触れる（川の中の生き物探し、河原の植物、野鳥、石ころ観察） ～ 川のめぐみを味わう（休憩・昼食（鮎弁当）） ～ 川のめぐみ・水道の水を知ろう（神奈川県広域水道企業団 社家取水管理事務所 相模取水施設の見学、相模大堰の魚道、併設ビオトープ見学） ～ 厚木市役所



玉川で
大人も童心に返って、生き物探しに熱中しました。
獲れた魚などは、講師の諏訪部さんから解説があり、その後河に戻しました。



社家取水堰（相模大堰）では建設当時、河原の希少な植物の生育場所がなくなるのが心配され、市民運動もあったこともあり、ビオトープが作られ希少な動植物の生息生育場所となっています。

ビオトープの動植物解説



堰の魚道には一部アクリル板をはめて中の様子が見られる設備があります。

アユが遡上するシーズンに見てみたいものです。 →



ウグイ

写真は撮れませんでしたでしたがオーストラリアからの使者。コアシサシ（当日資料より）



外来種対策事業

—アメリカザリガニと遊ぼう—

「外来種のことについて考えよう」

厚木市の「生物多様性あつぎ戦略」の一環として今年から取り組んだことに外来種対策があります。

神奈川県自然保護協会は、これに共同して6月に、特定外来種「オオキンケイギク」について市民に自治会を通して回覧するチラシを作成をしました。

きれいで、持ち帰ったり、植えたりしないで



要注意!! 特定外来生物

オオキンケイギク

オオキンケイギクは繁殖力が強く、生態系に重大な影響を及ぼす恐れがあるとして「特定外来生物」に指定されています。市内の道端や川の土手などにも生育し、5～7月頃に鮮やかな黄色の花をつけます。見掛けても、絶対に持ち帰ったり、植えたりしないでください。

特定外来生物とは?

海外からの外来種で、日本の生態系に被害を及ぼすものとして環境省が指定した生物です。これらの生物を飼育・栽培・保管・運搬・譲渡・輸入・野外に放つことなどを原則禁止しており、違反すると罰則があります。

◆オオキンケイギクの処理方法◆

処理する場合は、根から引き抜いたものをビニール袋等に入れ、「もえるごみ」の日に資源物へ出してください。ただし、多量となる場合は、厚木市環境政策課までお問い合わせください。

お問い合わせ 厚木市環境政策課環境政策課/厚木市中野3-17-17
TEL:046-225-2746/FAX:046-223-1668/E-mail:3100@city.atsumi.kanagawa.jp

外来生物により在来生態系が影響を受けています
このような生きものを見かけたことはありませんか?



【イソハシジメ】(別名 ニセアザミヤ) (要注意外来)
河川敷などに生える。成長が速く、河川の植物は日光を奪われ衰退してしまう。



【アライグマ】(特定外来)
ペットとして輸入されたものが気性が荒く、餌をなすりつけたり野生に放したものが繁殖。農作物や野生動物を食い尽くす。



【マルバハコブ】
畑の雑草。ツルが作物に絡みついて四方八方に広がって光合成ができず収量が減ってしまう。



【シシシズク】(要注意外来)
毎日などで買われたものが飼育できず、川や池に捨てられたもの。在来のカメの生育環境に影響を与えた。



【アサギ】(特定外来)
輸入大船に侵入して侵入。豆腐屋さんの店先から増殖したとされる。マダガスカルに広がるので下の植物は枯れてしまう。



【アメリカザリガニ】(要注意外来)
田んぼの畔に穴を開け、イネの根を切るなどの農作物や水田を被害を及ぼすなど、淡水生態系に影響を与える。

第二弾として、学校が夏休み中の8月20日、厚木中央公園に子どもたちを集めて、「アメリカザリガニと遊ぼう」を実施しました。70人ほどの参加者がありました。

内容は、

- ① ザリガニと遊ぼう
 - ア 幼児用プールに多数のザリガニを入れ、ザリガニを入れ、いろいろな餌を用意しザリガニ釣りをする。
 - イ クレヨン、画用紙等用意しザリガニの絵を描く。
 - ウ 小さな水槽にザリガニを入れ、観察。(各部がどうなっているか、どんな動きをするか説明)
- ② ザリガニを知ろう
 - ア アメリカザリガニが日本に広がったわけ、日本の自然にどのような影響を与えているか。などの話。

外来種啓発ちらし

同 裏面

イ 外来種について取り組んでいる向上高校生物部

の生徒さんによる活動の話。

③ 参加した子どもたちと、対策はどうしたら良いか、自分たちでどんなことができるかななどの話し合い。でした。

向上高校の生徒さん3人に手伝いをしてもらったり、発表してもらったりと参加してもらいました。子どもたちに近い年齢の生徒さん達なのは効果的でした。

どっちが強いかな

ザリガニ釣り

アメリカザリガニの話

ザリガニの絵を描いてみよう

子どもたちに話をする向上高校生徒さんたち

写真は厚木市会議員 高田ヒロシさんホームページより

- 4 -

神奈川県内自然保護ニュース

渋沢丘陵霊園問題

市道を挟んで造成される駐車場は一体のものか。

この件では、霊園開発面積が 19.9 畝でぎりぎり環境アセスメント対象を下回っています。

ところが、道路を挟んでこの範囲の外に作られる駐車場が一体のものであるか、無いかはアセス対象開発と大きな関わりを持っています。

一体とは何か、国土利用計画法に基づく土地取引の規制に関する措置等の運用指針によれば「一団の土地とは、土地利用上現に一体の土地を構成しており、又は一体として利用に供することが可能なひとかたまりの土地で、かつ、当事者の一方又は双方(事後届出の場合は、権利取得者)が、一連の計画の下に、土地に関する権利又は設定を受け、又は行うその土地が法所定の面積以上であるものをいう、のだそうです。

これを以て、保護グループは 20 畝を超えるので条例違反であると言っています。

県は、9月8日付の回答書で「物理的な一体性」「事業者の同一性」などを総合的に勘案し、一団の区域かどうかを判断するとの基準を提示。その上で、駐車場は墓地の区域と物理的に離れており、別の事業者が管理・運営し、法

(このページに掲載する情報をお寄せください。)
人と賃貸借契約を結んでいるとして、一団の区域とは認められないと判断したたそうです。

どう見ても、おかしい状態に思えるのですが、県も市も初めから認可ありきのように強引に進めているように見えます。

【新聞記事から】

秦野の霊園建設問題:「虚偽記載」県に抗議 森林審提出文書で自然保護グループ / 神奈川 7月26日毎日新聞

秦野の霊園建設問題:「事業者は公益法人」市、要望書に文書回答 / 神奈川 8月7日毎日新聞

秦野の霊園建設問題:霊園開発、再度許可差し止め要望市長に自然保護団体 / 神奈川 8月9日毎日新聞

秦野の大規模霊園開発問題:計画書、差し戻しを 自然保護グループ、条例違反訴え県に要求 / 神奈川 8月19日毎日新聞

秦野の霊園建設問題:差し戻し、市議会に勧告陳情??市民5団体 / 神奈川 8月28日毎日新聞

秦野の霊園建設問題:開発巡り市「条例違反ではない」 / 神奈川 9月9日毎日新聞

秦野の霊園建設問題:県「条例違反せず」 自然保護団体に回答 / 神奈川 2014年09月26日毎日新聞

横浜上郷地区開発（瀬上沢開発問題）

開発計画の認可は都市計画評価委員会で決められます。

この日程は、まだ決まっていません。前回平成20年は、5月7日公聴会で7月29日評価委員会でしたが、今回は5月20日公聴会がありました。

東急建設は、「却下すれば墓地や福祉施設等乱開発で樹林地が失われる」として、自らの開発計画を認めるように圧力をかけているようです。

(ホテルのふるさと瀬上基金 角田東一氏)

県自然保護協会は7月31日付けで横浜市長宛次のような陳情書を出し、8月5日付けで回答を受け取りました。

2014年 7月31日

横浜市長 林 文子 様

NPO 法人神奈川県自然保護協会

理事長 藤崎英輔

横浜市栄区における上郷開発都市計画提案案件についての陳情

陳情項目

1 上郷開発都市計画提案について、横浜市人口動態の将来を見据え市街地拡散を抑制する観点から市街化区域を拡大する変更を認めないで下さい。

2 神奈川県民及び横浜市民の財産として開発提案区域内の希少生物の生息空間や歴史的文化財を保全して下さい

先日、平成26年5月12日付けで、「認定 NPO 法人ホテルのふるさと瀬上沢基金」より貴職宛「上郷開発都市計画提案について陳情」が出されました。

これに関して、当 NPO 法人神奈川県自然保護協会は、将来の人口減少社会における神奈川県のあるべき姿を考えると、都市域に残された貴重なみどりをこれ以上失う結果になることは、大きな禍根を残すこと

になると考え、上記陳情と同意見です。

補足

1 日本の人口の動態を見ると、減少の傾向は止まらず、横浜市内においても1960年代から70年代にかけて周辺部の緑を潰して作られた住宅・マンションでは住民の高齢化が進み、空き家も目立つようになりつつあります。

横浜市は、新たな開発により緑を失うことは避け、既存の市街地の再開発によるコンパクトシティをめざし、逆に緑を増やすことによって市民の生活の質を高める方向を目指すべきと考えます。これは横浜市の都市計画マスタープランの目指す方向そのものです。

このような状況に対応すべく、2002 年度創設されたのが都市計画提案制度ですが、本件提案案件は都市域を拡大するものであり、従来の開発計画と変わることなく、制度の想定としたものとは違うものです。

2 現在計画地域では地権者が立ち入りを制限しているために、「認定 NPO 法人ホテルのふるさと瀬上沢基金」陳情書添付資料1「上郷開発関連地域で近年記録された主要昆虫」は昆虫のことだけを記述したもので、他の生物群についても同じような事情があることが想像に難くありません。

貴重な動植物が生息生存し、豊かな生物多様性が保たれていると推定されることを思うとき、実態の調査が不十分のまま開発を許すことにつながる許認可は慎重に行わなければならないと考えます。

また、「深田製鉄遺跡」については未発掘の部分があり全容が明らかになっていません。

発掘調査したとしてもそれが記録保存だけであれば、将来新たな視点で見直そうとしても検証することができません。

自然も歴史的遺産も市民の価値ある財産です。

市都市計画マスタープランは長期的には2050年を

視野に入れています。その時、都市の魅力としてイメージできるものは何かとの観点に立ち、計画提案されていることへの対応をされるよう要請いたします。

市広聴第 846 号
平成 26 年 8 月 15 日

NPO 法人神奈川県自然保護協会
理事長 藤崎 英輔 様

横浜市長 林 文子
横浜市長区における上郷開発都市計画提案案件について
(回答)

さきに陳情(2014 年 7 月 31 日)のありましたことについて、次のとおりお答えします。

栄区上郷猿田地区における都市計画提案については、平成 26 年 1 月 17 日の提案受理後、3 月 23 日、24 日に提案説明会、5 月 20 日には提案公聴会を開催しました。

都市計画提案の評価にあたっては、将来のまちのあるべき姿を見据えつつ、都市計画の決定又は変更をする必要があるか否かを判断していくことになります。

動植物の生息については、当該事業の当初計画を対象にした環境影響評価手続の中で調査が行われました。また、

丹沢ブナ党シンポジウム

「丹沢に未来はあるか 一丹沢はどうなるのか、そして人間と自然について考える」

神奈川県による丹沢大山自然再生計画が実施されつつありますが、私たちが丹沢を歩いても、中々その成果が目に見える形で表れてきていないように感じます。

山の斜面が抜けて赤茶けた姿をさらしている所がたくさん目につきますし、林床植生を食い尽くそうとするニホンジカの生息頭数も減っていかないようです。ブナの立ち枯れは一時ほどの急激さは無いものの、止まってはいませんし、比較的若い木の立ち枯れも目に付きます。鳥も減りました。虫も減りました。

鬱蒼たるブナの森を再生するとされている丹沢大山再生計画ですが、進みつつある方向は必ずしも定かではないかのように見え寺す。

また、丹沢と相模湾をつなぐ緑の回廊をなす大磯丘陵の核心部、渋沢丘陵北部の峠地区、八国見山の南斜面には、貴重な自然を壊して巨大な霊園が開設されようとしております。

これから丹沢はどうなっていくのか、目指すべき方向に行くために何が必要なのか、そして、丹沢の、里山の自然とは、私たち人間にとってどのような意義、価値を有しているのか、ここで考えてみたいと思います。そうすることが、熊踊るブナの森の再生へと繋がっていくことになるように思うのです。

日時 2014 年 11 月 23 日(日) 13:00 ~ 16:30

場所 横浜市従会館(JR 桜木町下車、徒歩 10 分、京急日

修正事業計画を対象とした環境影響評価に係る市長意見(平成 26 年 7 月 10 日)の中で、引き続き既存資料や NPO などから情報を収集し現在の状況把握に努めるとともに、新たに発見された注目種は、その生息環境の確保について検討するよう、事業者に求めています。

当該開発予定地にある「上郷深田遺跡」は、周知の埋蔵文化財包蔵地であり、開発などを行う場合は、文化財保護法に基づき事前の届けが事業者には義務づけられています。

この遺跡を含めた埋蔵文化財の包蔵地の開発がされる場合は、本市教育委員会では、現地を確認のうえ、必要に応じ調査などを開発業者の協力のもとに進めていきます。

この旨ご了承いただき、貴会の皆様によりしくお伝えください。

8 月 13 日

上郷開発提案に対する横浜市都市計画評価委員会は、今週中は行われない模様です。

市民からの多くの意見に対し調査確認事項が多く、まだ委員会を開催する準備が整っていないものと推測されます。(角田氏メール)

詳細はホームページ参照 <http://www.segamikikin.org/>

の出町下車、徒歩 10 分)

記念講演 小泉武栄(東京学芸大学名誉教授)

「生物多様性を支える地形、地質条件」

小泉先生は山の自然や特性を地形、地質条件を含めた総合的な見方から考える“山の自然学”という分野を切り拓かれました。私たちが自然に接するときに、考えるべき事など興味深いお話しが伺えることと思います。

パネル討論 上記テーマについて

パネリスト

小泉武栄 (東京学芸大学名誉教授)

長縄今日子(神奈川県立秦野ビジターセンター館長)

斉藤央嗣(神奈川県立自然環境保全センター 主任研究員)

斉藤 理(神奈川県昆虫談話会会員)

司会 梶谷
敏夫 (丹沢ブナ
党代表)

主催 丹沢ブナ党
223-0051 横
浜市港北区箕輪町
3-3-8

Tel 045-563-3953

e-mail

bunato-kazitani @
mub.biglobe.ne.jp



桜木町駅からは紅葉橋経由が分かりやすいです。徒歩 10 分

ニュースレター 78号

特定非営利活動法人

神奈川県自然保護協会

<http://www.eco-kana.org>

郵便振替口座 00230-0-112653 銀行からの振り込みは ゆうちょ銀行(9900) 029 (ゼロニキヨ)店 当座 0112653

2014年 9月 29日発行

〒243-0816 厚木市 林 5-15-10 青砥方

TEL&FAX 046-222-2356

Eメール:nacs-kana-office01@eco-kana.org